

『本学の目指すアスリート支援体制 —次世代のエビデンス創生を目指して—』

コーディネーター

齊藤 昌久¹⁾, 梶川 拓馬²⁾

¹⁾柔道整復学講座, ²⁾看護学講座

本学は、東西医学の融合を掲げ、社会が必要とし、社会から必要とされる真の医療人の育成をめざす医療系大学です。この強みを活かした「スポーツ振興プロジェクト」にも力が注がれています。

2020 年に本国で広がった COVID-19 による影響は、現代の医療系大学に在籍するアスリート学生にも深刻な影響を与えました。競技・学業の両面で身体的・精神的にも負荷の強い状況下にあるアスリート学生の健康管理や競技力向上に対して、どのようなサポートが可能であるか、今一度振り返り、サイエンスの視点から新たな方針を見出す必要があるのではないのでしょうか。また、コーチと教育・研究者の間に十分な連携が取れてきたか、という点では十分とはいえないかもしれません。

そこで、本シンポジウムでは、谷口剛志先生（鍼灸学）、木村篤史先生（柔道整復学）、原貴大先生（救急救命学）、佐藤裕見子先生（看護学）が研究者の立場から、また小川豊清先生（柔道）、三浦重則先生（陸上競技・投擲）が競技スポーツコーチの立場からそれぞれの現状や課題などについて論じていただき、議論を深めます。本シンポジウムを契機に、コーチと教育・研究者の連携を図り、更なる競技力の向上と活発な研究・教育活動、さらに科学的知見に基づいたコーチング（Evidence Based of Sport Coaching）の継続的なサポートの礎になることを期待します。